

- 問1 日本列島の中央部を南北に縦断し、地質学的な境界となっている巨大な溝状の地形を何といいますか。この地帯を境にして、列島における山地や山脈の並ぶ方向が大きく変化するという特徴があります。 (2023年 山形県公立入試 類似)
1. シラス台地 2. フォッサマグナ 3. カルデラ 4. リアス海岸
- 問2 冬の日本海側では、世界でも有数の豪雪地帯となる場所が多く見られます。この気象現象において、日本海を流れる対馬海流が果たしている役割についての説明として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
1. 黒潮の強い勢いを利用して、日本海側に溜まった暖かく湿った空気を大陸側へ押し戻す役割。
2. 日本海を南下するリマン海流と衝突することで上昇気流を発生させ、一年を通じて安定した降水をもたらす役割。
3. 暖流として海面の温度を比較的高く保つことで、冷たい季節風に大量の水蒸気を与え、雪雲を発達させる役割。
4. 寒流として海面付近の空気を冷やすことで、シベリア高気圧から吹く風の水分を凍らせ、雪の結晶を作る役割。
- 問3 自治体がハザードマップを作成し、住民に配布する主な目的として、最も適切な説明はどれか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. 等高線を用いて土地の起伏を正確に描き、土地の価格を決定するため
2. 災害による被害を予測し、住民が迅速かつ安全に避難できるようにするため
3. 過去に発生した地震の正確な発生時刻や震源地を記録として保存するため
4. 公共事業としてダムや堤防などの建設予定地を住民に知らせるため
- 問4 日本の河川は、世界の主要な河川と比較して「長さが短く、流れが急である」という特色を持っています。この河川の特色が、日本の自然災害や人々の生活に与えている影響についての説明として正しいものはどれですか。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)
1. 川の長さが非常に長いため、下流域に水が届くまでに時間がかかり、生活用水が常に不足している
2. 雨が降ると一気に水が海へ流れ出るため、洪水が起こりやすく、治水や利水のためにダムが多く建設されてきた
3. 勾配が平坦であるため、水力発電に適した場所が少なく、日本の電力のほとんどは河川以外のエネルギーで賄われている
4. 流れが非常に緩やかなため、内陸部まで大型船が遡上しやすく、古くから河川を利用した水上交通が極めて盛んである
- 問5 火山噴火時の降灰範囲や土砂崩れの危険箇所、避難所などを地図上に示し、自然災害による被害を予測して小さくすることを目的として作成された地図を何というか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
1. 地形図 2. 路線図 3. ハザードマップ 4. 土地利用図
- 問6 長崎県の九十九島に見られるような、複雑に入り組んだ海岸地形（リアス海岸）の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 愛知県公立入試 類似)
1. 川の流れによって運ばれた土砂が河口付近に積もり、平坦な土地を形成している。
2. 海流によって運ばれた砂が堆積し、湾をふさぐように伸びている。
3. 山地から平地に流れ出る場所に、砂利が扇の形に堆積してできている。
4. 奥行きのある湾と岬が連続し、海岸線が非常に長くなっている。
- 問7 日本の気候区分のうち、茨城県水戸市のように、夏から秋にかけて降水量が多くなり、冬には乾燥した晴天が続く特徴を持つ気候を何といいますか。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)
1. 瀬戸内の気候 2. 中央高地の気候 3. 日本海側の気候 4. 太平洋側の気候
- 問8 日本列島の中央部に位置するフォッサマグナを境界として、各地の山脈や山地が連なっている方向には大きな違いがあります。フォッサマグナより東側の地域と、西側の地域における山脈の一般的な連なりの方向の組み合わせとして、正しいものはどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
1. 東側：南西方向、西側：北東方向 2. 東側：南北方向、西側：東西方向 3. 東側：東西方向、西側：南北方向 4. 東側：北東方向、西側：南西方向
- 問9 日本の周辺を流れる海流の分布において、北から南へ向かう流れ（寒流）について説明した文として正しいものはどれですか。 (2017年 岡山県公立入試 類似)
1. 太平洋側では親潮が南下し、日本海側ではリマン海流が南下している。
2. 太平洋側ではリマン海流が南下し、日本海側では親潮が南下している。
3. 太平洋側では対馬海流が南下し、日本海側では黒潮が南下している。
4. 太平洋側では黒潮が南下し、日本海側では対馬海流が南下している。
- 問10 「天井川」と呼ばれる地形がみられる地域において、道路や鉄道などの交通網が整備される際によく見られる特徴的な構造について、正しい説明はどれですか。 (2017年 静岡県公立入試 類似)
1. 土砂の堆積を防ぐために、川の全域にわたって巨大な屋根（天井）が設置される。
2. 堤防が非常に高いため、川を渡る際はすべて大型のループ橋で高さを稼ぐ。
3. 船の運航を優先するため、鉄道や道路は川を避けて大きく迂回して作られる。
4. 川底が周辺の土地より高いため、鉄道や道路が川の下をトンネルで通り抜ける。
- 問11 河川が上流から土砂を運搬し、勾配の急な山地から平地へ流れ出る場所や、河口付近において、その土砂が積もることによって形成される地形の形成作用として、最も適切なものはどれか。 (2015年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 河川による侵食作用 2. 波の力による浸食作用 3. 地殻変動による隆起作用 4. 河川による堆積作用
- 問12 二万五千分の一地形図において、地形の起伏を表現するために一定の高度ごとに引かれる「等高線」のうち、主曲線の間隔として正しいものはどれですか。 (2026年 沖縄県公立入試 類似)
1. 20メートル 2. 50メートル 3. 5メートル 4. 10メートル
- 問13 日本の河川を世界の大河川と比較した際、地形的な特徴とその影響について説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2017年 広島県公立入試 類似)
1. 流域面積が非常に広いため、大陸の河川のように国境を越えて流れる国際河川が多い。
2. 流路の長さが短く傾斜が急であるため、雨が降ると短時間で一気に増水し、流速も速い。
3. 流路の長さが長く傾斜が緩やかであるため、年間を通じて流量が安定しており、船舶の航行に適している。
4. 山地から海までの距離が長いいため、河口付近では水の流れが非常に穏やかである。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 フォッサマグナ	ラテン語で「大きな溝」を意味するこの地形は、東日本と西日本の地質学的な境目となっています。この溝状の地帯を境に、日本列島の山脈が延びる方向が劇的に変わるため、日本の地形を理解する上で非常に重要な構造です。火山の噴火によって生じるくぼ地であるカルデラとは、形成の成り立ちが異なります。
問2	答え 3 暖流として海面の温度を比較的高く保つことで、冷たい季節風に大量の水蒸気を与え、雪雲を発達させる役割。	冬、シベリア高気圧から吹き出す冷たく乾いた季節風が、相対的に暖かい対馬海流の上を通過する際、海面から大量の水蒸気が供給されます。湿った空気は日本の山脈にぶつかって上昇し、雪雲となって日本海側に大雪をもたらします。対馬海流という暖流の存在が、日本の冬の気候に特異な影響を及ぼしています。
問3	答え 2 災害による被害を予測し、住民が迅速かつ安全に避難できるようにするため	ハザードマップは、災害が発生する前に危険な場所や避難経路を確認しておくためのツールである。これにより、いざという時に住民が自らの判断で適切な避難行動をとり、被害を軽減（減災）させることが期待されている。
問4	答え 2 雨が降ると一気に水が海へ流れ出るため、洪水が起こりやすく、治水や利水のためにダムが多く建設されてきた	日本の河川は勾配が急であるため、大雨が降ると短時間で大量の水が下流に押し寄せ、洪水を引き起こしやすいというリスクがあります。このため、古くから堤防の整備や、水を貯めて調節するためのダム建設といった治水対策が行われてきました。また、急流を活かした水力発電や、短期間で海へ流れてしまう水を確保するための利水対策も、この地形的特徴に基づいています。
問5	答え 3 ハザードマップ	自然災害による被害を軽減（減災）するために、被災想定区域や避難場所、避難経路などを予測して表示した地図のことです。「防災マップ」とも呼ばれます。地形図は地形や土地の様子を表したもので、路線図は交通機関の経路を表したものであり、目的が異なります。
問6	答え 4 奥行きのある湾と岬が連続し、海岸線が非常に長くなっている。	山地が直接海に面している場所で、谷が海に沈むことによって形成されるため、入り江が深く複雑な形になります。選択肢にある砂が堆積してできる「砂州」や、河口付近の堆積地形である「三角洲」、山麓の「扇状地」とは、地形が形成される要因が根本的に異なります。
問7	答え 4 太平洋側の気候	太平洋側の気候は、夏に湿った南東の季節風の影響を受けるため、夏から秋（梅雨や台風時期を含む）にかけて降水量が多くなります。一方、冬は北西の季節風が日本列島中央の山脈に遮られるため、水分を失った乾燥した風が吹き、晴天の日が多くなるのが特徴です。
問8	答え 2 東側：南北方向、西側：東西方向	日本列島の地形は、中央部にある巨大な溝状の地形であるフォッサマグナを境に、山々の並ぶ方向が変化しています。フォッサマグナよりも東側の東日本では、奥羽山脈に見られるように山地や山脈は主に南北方向に並んでいます。これに対し、フォッサマグナよりも西側の西日本では、中国山地や四国山地のように、山脈は主に東西方向に並ぶ傾向があります。この方向の違いは、日本列島の成り立ちやプレートの運動が深く関わっています。
問9	答え 1 太平洋側では親潮が南下し、日本海側ではリマン海流が南下している。	日本近海の寒流は、太平洋側では千島海流（親潮）が北海道から三陸沖にかけて南下し、日本海側ではリマン海流が大陸沿いを南下しています。これに対し、南から北上する暖流は太平洋側の日本海流（黒潮）と、日本海側の対馬海流があります。
問10	答え 4 川底が周辺の土地より高いため、鉄道や道路が川の下をトンネルで通り抜ける。	天井川は地面よりも高い位置を川が流れているため、橋を架けるよりも川の下にトンネルを掘る方が高低差を少なく抑えられる場合があります。かつての草津川（滋賀県）では、東海道本線や国道が川の下をトンネルで通過する光景が見られました。
問11	答え 4 河川による堆積作用	河川には、地表を削る「侵食」、削ったものを運ぶ「運搬」、流れが緩やかな場所に溜める「堆積」の3つの作用がある。扇状地や三角州は、河川が運んできた土砂が、勢いの弱まった場所に積もることで作られるため、堆積作用による地形に分類される。
問12	答え 4 10メートル	日本の国土地理院が発行する二万五千分の一地形図では、主曲線は10メートル間隔、太い線で描かれる計曲線は50メートル間隔で引かれています。これにより、等高線の密度を見るだけで傾斜の急峻さを把握することが可能です。なお、五万分の一地形図の場合は、主曲線が20メートル間隔になります。
問13	答え 2 流路の長さが短く傾斜が急であるため、雨が降ると短時間で一気に増水し、流速も速い。	日本の河川は、中央部に山脈が連なる島国という地形的条件から、世界の大河川に比べて源流から河口までの距離が短く、標高差が大きいため傾斜が非常に急になります。このため、降雨時に水が海へ流れ出るまでの時間が短く、急激な増水や速い流速が特徴となります。